

伊佐津村「御用日記附覚帳」

解題

東 昇

本資料は、近世後期田辺藩領伊佐津村の御用日記である。御用日記が含まれる「伊佐津村川北家文書」（館古六二五）は、京都府立京都学・歴史館所蔵である。これは伊佐津村の庄屋であった川北藤右衛門家に伝来した文書群で、一八世紀中期から大正期まで総点数三九八点である（文書解題）。

御用日記は四冊存在し、いずれも川北藤右衛門が作成したと記される。各冊の記載年は、まず一冊目の「御用日記附覚帳」（伊佐津村川北家文書一）は、寛政五年（一七九三）正月から寛政八年四月までの三年四ヶ月、二冊目の「御用日記覚帳」（同二）は、文政五年（一八二二）正月から文政六年正月七日までの一年、三冊目の「御用日記覚帳」（同三）は、文政六年正月から文政七年正月までの一年、四冊目の「御用日記覚帳」（同四）は、天保三年（一八三二）五月朔日～天保四年二月までの一〇ヶ月である。二・三冊は連続しているが、全体で四〇年間の開きがあることから、複数人で記された可能性もある。

今回は紙面の都合から、一冊目「御用日記附覚帳」の寛政五、六年の二年分に限定し、翻刻を掲載した。記載形式は、数行の日記部分、奉行所へ

の「奉願口上覚」、触や廻状の写し部分がある。二月二五日付近に「願書之儀も書留有候」「御用廻状書留日記帳」とあり、本資料の性格を表していると思われる。

内容については、伊佐津村をめぐる様々な記事があり、田辺城下近郊村落の興味深い記録といえる。特に、正月一三日の藩主の青谷山鹿狩では、村から人足を差し出し、一九疋の鹿を仕留めたことが分かる。その青谷山は伊佐津村の肥草や薪採集の入会山であったが、四月に倉谷村五〇人に草茹を妨害され、争論に発展している。また藩主一族や藩士などの乳母募集が多く、一二月には「讃岐守様御乳持御入用」として、「御城下近キ村方之者相除」き、「乳沢山二有之実体成者御望」、取廻し等が不調法でもよいという触が出ており、当時の武士の乳児養育に関する実態がうかがえる。

凡例

- ・ 翻刻にあたって基本的には原史料の記述を尊重しているが、以下の点については変更を加えている。
- ・ 文字は原則として常用漢字を用い、常用漢字にないものは正字を用いた。但し人名・地名は表記のまま記した。
- ・ 誤字・脱字・朱書などで、意味が通じにくいのが原本のままとしたものは（ママ）、原本の文字に疑問がある場合は（カ）とし、正字を○で注記した。
- ・ 虫損・汚損などによって文字が判読できない箇所は、□・―で示した。
- ・ 読みやすくするため、適宜読点を施した。

(表紙)

寛政五癸丑年

御用日記附覽帳

正月 伊佐津

川北藤右衛門

目安覚

二八七六 定

三九三 高

七六 取

五 四

四四 四歩四

二二一 小物

七八三

名寄異石七二而改八与三月由

一青谷山鹿狩り被 仰出候間 殿様御出被成候而人足行永組・福来組二引土

組方田満寺方十倉迄六ヶ村人足出候、尤 殿様御立間三谷之奥二立申候、

御上之鹿二ツ御勝負被成候

寛政五癸丑 正月十三日

一方向鹿狩り被仰出候而、則人足引土組・丸田組・大俣組・福来組・余部方

今田迄十式ヶ村人足出申候、則御立間吉田村二立申候、殿様同村年寄与惣

左衛門方へ御構休被遊候、当村八青井村之山へ参り申候、人足八居村方五

拾五人罷出候、殿様御勝負鹿十九足御取被遊候、以上

同年正月廿五日

一思召二付、老人七十余り養者無之難渋二及候者申上出候様御尋有之候
同年正月廿四日二御触廻り候

御介抱割ハ高ヲ書、則取四合四才
高子ノ年廿八石也

取米廿壹石式斗八升

四米壹石六ト四合

合廿式石三斗四升四合

内

次郎左衛門

弥右衛門

右之通り

坪高わり惣分へ荷シ、米ヲ高二有増シ割積り算二而メ何斗何升と一口二

人々書者也

メ 初二御無高惣分と書出ス

仕廻見合北屋敷へ又惣分へととしてメ書、都合する也

年号 二月 惣百姓中

年寄

庄屋

右之通り去ル子年御介抱百姓立合相談之上、割符仕候処少も無御座相違候、
以上

是八年号方前二書也

大庄屋様

一此間申達候通り、異国船相見江申候様二相聞江候二付、若紛敷船見付次第
早々致案内候様被 仰付候、尤異国船参り候儀老人聞伝候者有之候者早速

申出候様、是又被仰付候間、村々御吟味可被成候

一村々船御改ニ候間船數書記、右船之作り方并何石積と申儀早々御吟味之上

御申出候可被成候

一千葛葉〔又申付〕差出候儀、此節御差留〔又申付〕候様御心得可被成候

正月廿九日 廻り

一来ル七日方東方へ宗門御改ニ御出被成候、尤当組八十一日之積候而御座候
間、左様ニ御心得、且例之通り諸帳面早々御出シ可被成候、已上

二月三日

一松苗代与して竹苗被仰付候間、明後六日五ツ時迄二下福井村江左之通り御

差出可被成候、已上

一竹苗拾本

二月四日

奉願口上之覚

一今田村地之内、青谷山之儀ハ先規いさつ村肥草薪等尾入谷人致相弁来候
所、当年新法ニ福来村地之内、山道差留又申趣倉谷村いさつ使を以申来り候、
難得其意儀ニ付、去ル廿三日兩村役人共立会論談仕候得共、
然共差懸り候肥草之時節少茂日延不相成義ニ付、右之場所肥草刈ニ参り申
所、倉谷村いさつ五十人斗り一流ニ致伏待伊佐津村之者拾三人之荷江一荷二三
人五人宛鎗杯を振廻し取懸り、肥草拾三荷理無尽ニ切解撒散し、甚以心外
之事ニ候得共、手向ひ致候而者後日ニ申訳難相立儀与相心得、漸鎗棒簞尋
拾ひ持歸り申候、尤先規いさつ入来候場所ケ様ニ狼藉致候儀、甚以難治之次第、
何卒御上之御慈悲を以是迄之通り彼は無御座候様被為 仰付被下候ハ、難
有奉存候、已上

いさつ村年寄

太右衛門

同村庄や

藤右衛門

同

久大夫

寛政三辛亥年四月

御奉行様

一木出し人足、明九日ニ真倉村へ右之通り御出し可被成、尤棒つる為持、朝
六ツ半時揃ニ真倉村へ相揃、庄屋文右衛門差函請差出候様ニ御申付可被成
候、已上 二月八日

高野谷いさつ荷出申候、是外廻文ニ而申遣候、右之通無間違御差出、尤得出候不
申候得共、又々其人足ニ明後十日ニ差出させ可申間無助弁相働申候様御申付
可被成候、已上

一来ル十一日宗判被 仰出候、尤年寄方ハ組頭ヲ引連れ御よみ渡シ之節ハ其

村之庄屋之跡ニならひ可被申候

一宗判ニ罷出候者、繩引こま急度不仕候様御申達、若左様ニ不心得之者跡ニ
而承り候得者可及沙汰ニ候

一傘ひねり簞御法度之儀ニ而申迄茂無之候得共為念申達候、尤竹いさつの笠田み
のニ而罷出候様御申達可被成候

一組頭ハ我組下ヲ召連致吟味不心得無之様、随分氣ヲ付可申様御申達可被成
候

一十日之九ツ時揃ニ町宿へ御出人足何角無間違、例之通り御割付、尤遠方いさつ
村方ハ例之通人足召連御出可被成候、已上

右之通り急度御申付可被成候、已上

一宗門御礼之儀、来ル十六日東西共罷出候、尤講堂被仰付候間、朔五ツ時前

二拙宅へ御出可被成候、町宿江ハ相寄不申、直ニ致同道相勤申度候、已上

二月十二日

御奉行所様

久太郎

一昨日被相願候願書

御奉行所へ御留被成候ニ付、宗門御礼之節廻ニ御代官所御控願書差出候様ニ被仰出候、早々御差出可被成候、已上

二月十二日

請状之覚

四方文治

同家内共

右之者いさつ村致住居ニ付私へ請判相頼、此者事者上林真倉村出生ニ而慥成者ニ御座候故請判仕候、然上ハ此者ニ付何等之義致出来候而茂私罷出急度埒明、村方江少茂御難懸申間敷候、為後日仍如件

伊佐津村

寛政四壬子年六月

小三郎判

村御役人様

一今九ツ時過御供揃ニ而為御鷹野桂林山へ御出被仰出、尤犬橋繫候様例之通り御申付可被成候、以上

二月十六日

覚

四方文治

同家内共

右之者共此度いさつ村ニ致住居候得共、及此後ニ御村方ハ戻シ被成度時節者何時ニ而茂私方江引取可申候、其節少も致違背間敷候、為後日仍而如件

竹屋町道具屋

寛政四壬子年六月

平左衛門判

両御役人中様

渡邊東吾殿

右御鳥見助被 仰付候間、其段御心得可被成候、已上

二月十八日

一私父病身ニ付、幼年之者共祖母始世話仕候、段々困窮ニ付五年以前母儀京都江奉公罷出申候、今以不如意ニ付母儀罷歸呉候ハ、相談之上跡之手段茂仕度、則母方江申遣候処承知仕候段申越、然処叔父嘉左衛門不承知ニ而母者乍得心得罷歸不申候、依之以 御慈悲嘉左衛門承知仕呼戻呉候様被 仰付被下置候者難有奉存候、以上

子ノ九月 伊佐津村

一前達而被相願候御為道橋掛替材木、願之通り御免被仰付候間、伐手形差出候様被仰出候間、早々御差出可被成候、已上

二月十九日

奉願橋木之覺

一栗根太九本、長志間半

一御簡木百五拾本、長四尺

右御為道橋三ヶ所損申二付、懸替仕度候段奉願候、願之通り御免被為仰付被下候ハ、難有奉存候、以上

寛政五癸丑年二月 いさつ

庄屋

藤右衛門

同

久太夫

藤山新右衛門様

右之通り御免遂ヶ候二付、伐手形大庄屋様に願、則廿日ニ御奉行様御奥書ヲ御うら判もらい御山方へ差上申候

梅垣左衛門殿

右下横目役被仰付候間、左様ニ御承知、尤寺院へ茂御達可被成候、已上

二月廿三日

居村甚助老年寄上之儀ニ付、近所之者ニ相尋致儀有之候、今晚ニ而も明日ニ而も近所兩人程拙宅へ罷出候様御申付可有之候

二月廿五日

大庄屋江

在方之者共御城内徘徊仕候節者不申及、御家中之衆中江出合候ハ、かぶり物杯早速取之片付礼儀厚可仕候、其外途中何方ニおゐて茂行合之礼儀者不申及、近見渡シ見及之所ニ而茂如在之挙動仕間鋪候風俗を嗜不礼不作法無之様可仕段者、先達而追々申聞候事ニ候得者如何相心得候哉、不行届趣ニ相見江不埒

千万ニ候、役人共之心得茂甚いふかしく、都而被仰出候儀を軽々敷相心得候様之趣ニ至候而者差当ル身之上甚大切之事ニ候、是又先達而申付置候通組下役人之差引ニ茂難參、我意ヲ立手剛キ者茂有之候ハ、其段無遠慮可申出候、右体之者雖有之見逃シ差置、外より相聞沙汰於有之者幅弱之次第急度役人之越度ニ可申付候、畢竟御政道有之候而御下ニ致安堵住居仕候義者不法理不尽之儀御礼、貴賤上下之次第作法も相立候所有之ニ付而之儀ニ候得者、夫々之礼儀作法を相立候義者人道之常ニ而候、段々申付候上其次第も不行届、以來無礼之者も於有之ハ急度相咎、則其村役人江相渡礼明可申付候、且又一通之旅人江対し候而茂不実差支之義者致間鋪候者勿論之儀ニ候之所、身怪キ順礼

其外旅人之体を見立渡し守或者駕籠舁賃錢等之儀も事六ヶ鋪申掛ねたり取候様之趣相聞え甚悪度人情不届千万ニ候、一体御領内之風俗不宜様聞え之所も有之儀、已来左様之不実成儀於仕二者急度御咎メ可被、仰付候、殊更旅人たりとも帯刀を致し全武士与見懸候者江出合候ハ、片付礼儀を調無礼ヶ間鋪義無之様可相心得候、此段末々迄得与人別ニ申付、越度無之様可相心得候事

卯 七月

宝曆九己卯年年被

仰出候次第、此節大庄屋初庄屋共新役多ニ茂候間猶又心得違無之様及沙汰候、并郷中江御用ニ付罷出候役人江対シ不敬之儀無之様相意得可申候、此已後不礼筋相聞候節者一段重ク御咎メ有之候間、左様相心得可申事

丑ノ二月

来ル三月朔日

願書之儀も書留有候
御用廻状書留日記帳

一寸申上候嘉左衛門儀如何申候哉承度存候、弥不承知二御座候ハ、直簡仕候、御返事承度存候、已上

二月廿六日

藤右衛門様 久太郎

一御代官 今西作右衛門様

川口西支配

一御代官 高取助七様

御免

右之通り被 仰付候間、左様二御心得下々江茂御申達可被成候、已上

二月廿九日

尚々先日申達置候通り、来ル朝日節句御礼二而講堂も被 仰付候間、朝五ツ

時二間違なく御出町、尤何角申達度儀も有之候間、名代二而ハ難弁間早々御

出町可被成候、已上

一其村甚助と申者内

嫁

右之通り隣家三人、庄屋召連野田第之丞殿役宅へ今朔日八ツ時二罷出候様被

仰出候、左様二御承知可被成候、已上

三月朔日

一銭考メ文二付九文三分式り

但シ壹文二付百七文遣ひ

右之通り被 仰出候

一明三日鶏合被遊

御覽度候二付、御厩迄差出し申候様二被仰出候間、左様二御心得鶏飼合居

候者江御申付可被成候、已上

三月三日

一明四日朔五ツ時二少々申談度儀有之候間、拙宅へ御出可被成候、尤名代二而者難相弁早々御出可被成候、已上

三月三日五ツ過二参ル

一来ル十六日五ツ時二大麦并三ノ丸御米拜借被仰出候、尤当年者三ノ丸御米

ハ半高出残ハ秋作御覽被遊御積二而候間、左様御心得、左之通割合之通り

村々江罷出候間、人足召連御出可被成候、已上

三月十三日

一米壹石 居村分

一大麦六俵

尚々先納銀四月十日迄二致上納候様二被 仰出候、左様二御承知可被成候、

尤此間二割書相廻可申候、已上

一村々肥草刈時節之趣候間、何れ之村々もがさつ成儀不致候様人々家来等迄

得与申付へく候、所二より争論之儀出来候共草刈場所二而取争之儀堅相慎

可申候、申分有之候者居村江罷歸り役人を以相糺シ可申候、万一がさつ成

儀相聞ゆるにおいてハ不抱理非二急度被仰付候間、村役人より呉々入念可

申付候事

三月

右之通り二被仰出候間、村々役人所江女子供家来等二至迄相寄急度得心致候

様二御申付、若シがさつ成働いたし候者ハ早速御申出可被成候、等閑の取斗

有之候得者庄屋年寄共二急度越度二可被仰付候間、心得違無之様御承知可被

成候、已上

三月廿四日

一先達而申達置候中沢御氏方御頼之茅、来ル四月三日二高取案平様江差出候

様二被仰出候間、無間違差出、尤中沢徳左衛門殿江御案内可被成候、已上

一茅拾三束 伊左津村当り分

三月廿六日

一 御発駕前後爰元別而入念候様ニ可被申付候事

一来ル四月八日ニ先納銀致上納候間、早朝拙宅江御持參可被成候、尤居村ニ

一 村々庄屋中御奉行所迄恐悦申上候事

而難弁候村方ハ早々御申出可被成候、已上

丑ノ先納銀割

当組掛り

一 御目見之外寺院御奉行所迄恐悦ニ罷出候様ニ向寄庄屋方可被申達事

一 銀拾六貫七百八拾八匁

内

一 かのや

銀壹百九拾八匁五分 いさつ村分

加左衛門

内

右之者御発駕之上御家老様中江恐悦申上候事

五百貳拾九匁

四月八日上納

此旨伊左津村方可被相達候事

四百六拾匁

五月上納

貳百拾匁

六月上納

ノ

三月廿六日 廻り

一 真倉村ニテ所の渡り所江人足貳十人宛出置御支配之御手代方可被差図請事

甚助後家

一 拝見ニ罷出候者共不礼無之候様可申付候事

庄屋

右之通り被 仰出候間、此段御心得諸事例の通り御斗可有之候、以上

年寄

一 川越人足割、先格之通り五人 公文名村

大庄屋

拾五人 女布村

右之通り明廿七日朔五ツ時ニ御用被 仰付候間、無間違召連罷出可被成候、

ノ 貳拾人

已上

右真倉村御番所下江相詰候様、尤老人子供ハ不相成候

三月廿六日

夜八ツ時ニ状参ル

人足廻シ 公文名村庄屋

拾五人 京田村

安左衛門

五人 十倉村

拾五人 京田村

右則廿七日ニ鳥目三貫文御褒美被下置候、難有役人御礼申上候、已上

五人 十倉村

一来ル廿二日

ノ 二十人

殿様御発駕之事

右真くら橋詰江相詰候様、尤老人子供ハ不相成候

殿様御発駕之事

人足廻シ 十倉村庄屋 京田

六左衛門

右之通り召連、定メの場所江相詰可被申候

一御道筋江申達候掃除、其外雪隠之蓋杯気ヲ付、無沙汰無是様随^ま兩村役人之上吟味可被申付候

一七日一村江申達候御役人様方御休所并大庄屋休所其外諸事例之通り仕落無之様役人相心得可被申候

一真倉村江申達候何事も先格之通気ヲ付可被申候
右之通り御心得可有之候、以上

大庄や

源三郎

四月十日

組中廻り

一村々々被相願候他所持願之通り御免被 仰付候間、其段御心得可被成候、以上

庄屋中

一唐船参り候節御手当御足添被遊候様被仰出候、尤海辺二而御出被遊候間拜見者共御差留無之候得共、無礼仕候而者大切之事二御座候へ者、其心得急度御申付可被成候、已上

四月十一日

一今九ツ時御供添二而御近辺へ御出被 仰出候、例之通り御心得可被成候、已上

四月十六日

一徳川刑部卿様御逝去二付、普請之儀者昨十六日一日鳴物、昨十六日方来ル廿日迄五日之内御停止被 仰出候、此段村々致承知、尤寺院へも向寄之庄

屋方方早々相達可被申候、已上

四月十七日

一荒川儀平様

御代官役御免

同儀作様

御道奉行役

高取要助様 御山方役御免

御代官役

秋保五郎右衛門様

御山方役

右之通り被 仰出候、左様二御承知可被成候、已上

四月十七日

御拝借仕橋板之事

一橋板式枚

一杭木六本

×

右者瀬柄橋板二御拝借仕候処実正二御座候、御普請濟次第無相違御返納可仕候、已上

寛政五癸丑四月

伊佐津村

庄屋

藤右衛門

久大夫

川崎求治様

阿辻五太夫様

一併川方渡し京田村二有之候由、明廿五日二人足式拾式人御差出、尤逗り手

形京田村役人二有之候間、持付場所差図相請申候様御申付可被成候、已上

四月廿四日

一七十以上独居之者、村々致吟味早々申出候様ニ被仰付候間、主旨心得
右江御申出可被成候、以上

四月廿四日

一來ル五月二日西東共節句御礼相勤申候、尤例之通り講堂被仰付候、左様ニ
御心得

一先納銀六日迄ニ上納可致様ニ被仰出候、尤時分闇敷節ニ有之候ニ付、二月
節句の礼之砌、先納相揃可申間、朝五ツ時迄ニ町宿江御越被成候、刻限無
相違早々出町可被成候、已上

四月廿七日

一中山龍次様、右者御鳥見役被仰付候

一御手代役佐谷代右衛門殿御免

一同断山口武左衛門殿御免

一御手代藤野善八殿被仰付候

一御手代塩見斧右衛門殿被仰付候

右之通り被仰付候

一願二而御免 野村寺村 庄屋

并御目録被下 三右衛門

一庄屋役被仰付 同人悴 善三郎

則三右衛門ト改名有之候

一願二而庄屋役 高野由り村 庄屋

御免 利右衛門

一年寄役 同村百姓

被仰付候 長右衛門

右之通被仰付候

三月方四月晦日迄月抱御中間俄ニ被仰付、右ニ付十人村々被差出、則五月
朔日ニ御暇出案内致候村茂有之、又者当月五月迄御差留ノ人茂有之候由難相
分り候間、其村々下々御中間ニ罷出候名寄、又者いつ御暇罷出、又者いつ迄
御差留、何人而委御書加ハ留り此書状御戻し可被成如様ニ申候茂大庄屋中
ハ割いたし増請相寄せ度ニ付、右仕合ニ御座候、以上

五月八日

一北有路村 弥五右衛門悴

弥惣左衛門

右大庄屋役被仰付候間、則弥五右衛門与改名被致候、左様ニ御承知可被成候、
已上

五月十四日

去ル七日

殿様御機鎌能被遊御着府候間、其段御心得可被成候、以上

五月十八日

一大麦上納六月廿三日ニ被仰付候、御状六月十八日廻候

廻状

御城内ニ而日傘さし候儀者、御家老中様御手医之外者不相成儀、宝曆九卯年・
明和三戌年ニ茂被仰出候趣相流し候哉、近キ頃者寺院之内ニ茂心得違ひ茂有
之候哉之趣ニも相聞候、且又百性之儀者日笠等も御城内ニ而者可致遠慮之処、
是等之趣茂不埒千万不行屈事ニ候、此度被仰出候儀ニ而者無之候へ共、以来
心得違無是様惣寺院へも向寄之村役人方相達候様、岡田御氏方被仰出候

右之通りニ被仰出候間、村々御承知之上御申付可有之候、尤商人并草苅等御
門内ニ而日笠着申候儀ハ急度相成不申間、行届キ申候様急度御申付、且亦か
様ニ被仰出候上不心得之者有是候へ者、役人の上越度ニ被仰付候得者呉々御
申為聞可被成候、已上
丑ノ六月廿七日

一御目附 森数馬様

御再勤

右之通り被 仰出候

一大目附 庄門勘左衛門様

高田勝守様

一御鎗奉行 円城寺市右衛門様

右為御心得申入候

七月二日

於江戸表

若君様去月廿四日被遊御逝去候二付、普請来ル九日迄、鳴物同十四日迄御
停止被仰出候、御承知可被成候、尤村々寺院へも向寄庄屋を相達候様被仰出候、
早々相達可被成候、已上

七月六日

一寺社奉行 古河武助様

郡奉行

町奉行

右之通り御役義被 仰出候間、左様ニ御承知可被成候、尤寺院江茂向寄庄屋
を御達ニ可被成候、以上

七月八日

宮沢作左衛門殿、小頭より庄屋ニ而も年寄ニ而も御用有之候旨申參候ハ、無
遅滞可罷出候

一村方よつ儀他出差留可被申候、已上

七月十二日

野村七郎兵衛殿

右者郡・寺社・町三奉行下役見習古河御氏組御同心小頭被 仰付候間其段御
心得、尤寺院江茂御申達可被成候

一来ル十八日御下役江御悦ニ御出町可被成候、尤九ツ時揃、其外ニ少々申談
度儀有之候間、無間違可被罷出候、已上

七月十三日

公文名村庄屋

安左衛門

同村

年寄

同村

作左衛門

同村

太郎左衛門

伊佐津村庄屋

兩人

同村

よつ

高村軍平

伯母

メ 八人

右之者共明十九日八ツ時宮沢作左衛門殿御宅へ罷出候様、御申達可有之候、
已上

七月十八日

右之通り二夜前被仰出候二付、今朝申達候無間違今十九日八ツ時二召連御越
シ可有之候、已上

七月十九日

平村海辺江女之入水有之候儀、黄帷子を着、紋所ハ五枚笹、糸入嶋之帯を締
流寄候趣、何方の者共難相知候旨、平村方申出候間御吟味之上早々有無御申
出可被成候、已上

七月廿七日

来ル十一日、初御納所被仰付候間、左様ニ御心得可被成候、尤印判御持参御
出可被成候

八月四日

一御藏人足五人いさつ村、右之通り人足明朔^{あき}早々御藏へ差出可被申候、くわ
人々持出候様御申付可被成候、已上

八月八日

近頃村々酒小荒之者他所酒相調候様致風聞候、以来心得違無之様被仰出候間、
茶屋杯心得有之候而ハ甚大切之儀ニ候間呼寄急度御申付可被成候、已上

一小判六拾壹匁

右之通りニ被仰出候、已上

一式番收納十六日ニ而御座候間其段御申付、尤今ニ被仰付不申候へ共相極^{きん}り
申候事、廻何之御噂茂無是而何之若無間違候儀茂有之候者早直可申達候、
先々十六日ニ御申付可被成候

一牧野伊織様来ル廿日方野形御見分ニ東方へ御出被仰出被仰出候、尤川口御
見分ハ廿四日方御出野村路村御屋弁当、廿七日ニ而御座候

一野村路村へ申達候御宿割差支無之否、十六日迄ニ例の通り御書付御差出可
被成候

一庄屋年寄名前并町宿名前共書出候様被仰出候、尤年寄方名前、町宿村々方
てハ拙者無覚束候間、左之御印被成候、且留り方御戻シ可被成候、已上

八月十四日

一河守海道筋例年之通り掃除申付候間、人足召連来ル廿一日五ツ時各丁場江
可被罷出候、以上

八月十五日

荒川儀作
戸野半兵衛

大内口様ニ来月御産月ニ付御乳持参人御尋ニ候、尤給銀百三拾目ニ式人半扶
持被下置候積ニ候間、早々聞立有次第致案内候様被仰出候、最早日間茂無之
候間、当月中ニ御目見江為濟置申度候、且又品ニ方てハ少々増給茂出候間、
村方聞合有無之義御申出可被成候、已上

一次ル御收納日壹番式番廿日、三番四番廿一日ニ而有之候間、其旨御心得御
申付可被成候、已上

奉願口上之覚

一 西町大工平之丞娘

もみ

右之者共私共姪二而御座候所、早年二而母二後レ継母二相懸り居候之処、家内不和合二付、右之娘盆前の私方江参居候故段々異見仕、相帰可申様二申候得共、何分御慈非与思召如何様共被成始終相見届ケ呉候様申候故恩愛二而難見放、無抛平之丞二此方江相貫申度段相頼候得共聞入不申候、右二付近所衆又ハ御役人衆中之御世話二被成下候訳合相付不申候、何分私方江引取申度候、願之通リ以御憐愍被為、仰付被下置御志難有奉存候、以上

寛政五癸丑年八月

いさつ村

九平判

御奉行様

一先達而被申出候、乳持今四ツ時二御見目致候様被仰出候間、役人召連罷出

可被成候様被仰出候、已上

八月廿二日

右之通り御目見相濟御奉公ニあり付申候

八月廿二日 助四郎女房

昨日者御乳持御目見相濟申候、然ル所夜前五ツ時御出産有之候、右二付乳母今日昼時迄二罷出候様被仰出候間、其段御申付可被成候、早速之儀二故何角不都合ニ可有之候得共、其身俣二而不苦候間着俣二而御差出可被成候、已上

八月廿三日

追啓申入候、今日罷出候節拙宅江相寄申候様二御申付、且小頭方へ茂参り掛ケ二相寄申候様二御申付可被成候、已上

一野形御見分西方へ廿四日二御出被成候間、廿三日二人足割町宿二而有之候間、廻状ハ不廻候得共町宿江罷出申事二而例年之事ニ候、以上、人足拾人

八月廿三日

一節句御入用餅米来ル晦日・朔日両日の御収納ニ差出シ候様被仰付候間、左

之割の通り御差出可被成候、尤其日難出候者来九月二日・三日ニ成共候間

欠ニ不相成候様二間収納ニ可被差出候

一天気合茂悪敷候二付米も難出候者尤ニ候得共余り少ク被仰候二付、此次ハ収納ニ者随分出情ニ為相動可申様二御断申上置候間、急度割付ニ而も御申付可被成候、已上

餅米割

一三斗 いさつ村

追啓申入候、来ル廿七日ニハ野形御奉行様御迎ニ無間違人足召連御越可被成候、已上

八月廿五日

松平和泉守様去月十九日御死去ニ付鳴物此ニ方四日迄御停止、普請者不苦候左様ニ御心得、尤寺院江茂御達可被成候

一節句御礼者来ル六日東西共罷出候間、例之通早朝御出町可被成候

九月三日

覚

一栗丸太 五本

一同五寸角 式本

一松丸太 壹本 長式間半

末口壹尺

×八本 他所伐木願主藤右衛門

一松伐木 拾本

他所伐木願主善次郎

一 栗丸太 拾本

一 松丸太 拾本

一 竹 三束

丸太式拾本 他所伐木願主源次郎

一 栗丸太 四拾本

一 松丸太 三拾本

一同はんのき十本

八十本 他所伐木願主惣右衛門

右之通り御改被為 仰付相違無御座難有奉存候、已上

寛政五癸丑年九月四日

いさつ庄屋

藤右衛門

御山奉行

木村重五郎様

一 收納割九月十日二有之候、其故印判御持參可被成候、已上

九月十日

一 尾張宰相様去ル五日御逝去二付鳴物昨十五日十九日迄御停止被 仰出候、

尤普請昨日切御構無之候間、左様御心得、惣寺院江茂最寄御申達可被候、

已上

九月十六日

一 初六拾六石

右当組へ被仰付候間、割八追而可申達候間、左様二思召可有之候、已上

一 小判六拾五五分右之通り被仰出候、左様二御承知可被成候

一 細繩 泉源寺村

右之通り村々相廻り候間、例之通り御心得可被成候、已上

九月廿五日

指上申請状之事

一 此勘七与申者、私御請二立当九月の一ヶ年八拾五匁之給金二而御奉公二差

上申候

一 御公儀御法度之幾利支丹二而者無御座候、一向宗二紛無御座候、尤御家之

御法度相背申間敷候

一 此者二おみて万一取逃欠落惣而出入之儀有之候ハ、私罷出急度相糺可申候、

仍而如件

寛政五癸丑年九月

奉公人

いさつ村

甚七

庄屋印判

秋保友之助様

御家来中

一 御蔵米石二付初直段

六拾六匁 被仰出候

右之通り被仰出候間、御承知可被成候、已上

九月廿六日

一 例年之儀二者候得共、御收納中二者御定法茂有之事心得違無之様、御番所

向改等之節不都合之仕方有之候得者急度可被及御沙汰二候間、此段申付様

二 被仰出候、尤当年ハ別而天氣合茂宜敷候二米出悪敷二付不審も有之様二

相聞候間、急度御吟味被遊趣二被存候、甚大切之事二候間皆々心違無之様

得与御申聞セ可被成候、已上

一 小麦わら 百束

右者植村藤太夫殿御頼之由、岡田氏の申参り候間、来ル朔日村々割付之通り可被差出候、已上

大庄屋

九月廿九日

一六束 伊佐津村分

一明後四日被仰出候儀有之候、并二先納之儀茂御談申入度間五ツ時二拙宅江

御越可有之候、以上

十月二日

一たゝみ表式東 西光寺

代廿匁

一ハリ拾五匁

一糸六り五分

一大工十日代十八匁

✕ 五拾九匁五分

内 廿壹匁 いさつ村

拾貳匁五分 万願寺村

廿六匁 七日一村

✕

右之通り十月五日二申来り候、同十五六日迄二遣呉候様申来り候

一御藏米石二付六十四匁

十月四日

一御藏米直段

石二付六拾貳匁

一小判両替五拾九匁七分

右之通り被仰出候間、左様二御心得被成候、已上

十月八日

一明十三日、御藏人足左之割合通り差出可有之候、已上

一四人 いさつ村分

十月十二日

先日申達候在方二而小商ひ之儀急度御停止之事二候、乍併心得違之者共も有之様二願相聞候、甚大切之事二候間、此段致得納候様二御申付可有之候、已上

十月十三日

一敏次郎様若君様与奉称候旨被 仰出候間、其段御心得御申達

一三奉行 古河武助様

御免也

右之通り被仰付候間是又御申達

一御藏米石二付六拾壹匁

右之通り被 仰出候間、其段御達可有之候、已上

引土村 いさつ村

七日一村 真倉村

野村路村 城屋村

✕

右之村々庄屋二御用有之候二付、明廿日五ツ半時揃二罷出候様二被仰出候

一明廿日商人之儀二付、少々申談度儀有之候間、九ツ時揃二酒屋善太郎宅へ

御越可被成候、已上

十月十九日 居村甚助

一從思召二大妻壹俵被下頂裁仕難有奉存候、已上

十月廿日

一御囲粉四石式斗

外二八斗御種粉

外五石也

右割合之通り御心得置可被成候、已上

一御蔵米石二付六拾式匁

右之通被 仰付候

一繩俵御蔵二切候間、村々差出候様被 仰付候、已上

十月廿二日

一御囲粉廿四日_〆收納日二御差出可有之候

一田中半次郎様、源太夫様与御改名被成候間、其段御承知、尤寺院江茂向寄

御達可有之候

十一月廿二日

一御蔵米五拾五匁被仰出候

右之通被仰出候、左様二御心得可被下候

一御蔵人足覺

十二月四日 伊佐津村出し

十二月十七日 伊佐津村出し

一讚岐守様御乳持御入用被仰付候、尤御城下近キ村方之者相除ケ候様被仰付候、乳沢山二有之美体成者御望二候、取廻シ等不調法二而も其段御構ハ無

之候、早々御聞立有無之儀御案内御申出可被有候
十二月朔日

一組差引有之候、早朔_〆罷出様參り候、已上

十二月六日

一御蔵米石二付五拾六匁

一米斗出津御免

右之通被仰付候間、左様二御心得可有之候、已上

十二月五日

来ル廿五日歳暮二東西罷出候間、左様二御心得早々御越可有之候

一先納間積銀石二付十三匁式分七り 当り

十二月廿三日

其村方二

大内口様江御乳持二上り居申候者有之、御暇出候様二及承候、弥御暇出申候ハ、古河武助様方へ御抱被成度候間、其段被申聞罷出候様御取斗頼入存候、

以上

十二月廿六日

岡田伝右衛門様_〆

御拝借仕一札之事

一銀高合五百目

右之通奉願之通被仰付拜借仕難有奉存候、来春早々御無間違御返上可仕為後日拜借証文仍而如件

寛政五 十二月廿八日

かりぬし

加左衛門

請人

源次郎

同

又右衛門

御立合所様

前書之通り相違無御座候、以上

いさつ村

庄屋

藤右衛門

同

久太夫

一博奕壹文勝負ニ至迄堅御法度之事

一火之元念入大切ニ心得可申候事

一宗門御改例年之御日取ニ被仰出候間、其段相心得可申候事

一茅千五百四拾束

右者御作事御用寅年掛リニ被仰出候、尤代札昨日拙者方迄請取置申候、追而

割付代札相渡シ可申候

右之通り被仰出候間、其段御心得可有之候、已上

正月五日

種姫君様御逝去被遊候ニ付、鳴物昨十七日方来ル廿三日迄御停止、普請者不

苦候

右之通り被仰出候間、早々御申付可有之候、尤寺院江茂最寄方御申達可有之候、

已上

正月十八日

一米壹合札三分五り宛

村祈禱之出来札酒ハ五匁四五分、宿料壹匁五分、料理物壹匁三四分斗

右之趣ニ御座候、心覚ニ付置候

寅ノ正月廿日

一乳持御用ニ付被仰付候、尤大内口様御乳持ニ候間給分年百三拾匁ニ式人半

ふち被下置候間、早々御聞立御案内可有之候、然ハ年ばい三十五六迄之者

御尋ニ御座候、然其年礼通り之者無之候ハ四十内外迄不苦候間、否之案内

可申出候

正月廿日

送状之事

一此いわ代々禪宗ニ而居村ニ罷在候間、何之故障茂無之、此度其御村方へ引

越被申候ニ付送り状指添申候、為後日仍而如件

寛政六甲寅年正月 田邊伊佐津村

庄屋

藤右衛門判

久太夫判

宮津北村

御役人様

一大庄屋

婦役

右之通り被 仰付候間、此段御承知可有之候

已上

一去暮京田村之者御諸士江対シ過言有之候ニ付、籠舎被 仰付、漸昨日御免

有之候、畢竟御諸士与百姓与ハ次第相替るものにて候、乍併御諸士方ニ而

茂非法之取行有之候へ者庄屋江可申出事二候、此段心得違無之様可申付旨被 仰付候間、御申付可有之候

一 御諸士小役人方者不及申二庄屋年寄ニ至迄御上之御目代之事ニ候間、随分重シ過言無之様可相心得事ニ候、尤庄屋年寄我候之働有之候得者、大庄屋へ内分ニ而可申入候、大庄屋不取斗ハ庄屋へ申立庄屋上ニ而小役人方へ内分申上候得者可相分り事ニ候、此段為心得申達候間行届申候様ニ御申付可有之候

二月二日

奉願口上之覚

一 いさつ村

文蔵

年三十甥与八

右之者去ル子ノ年十二月廿五日京都伊勢屋善助方方欠落仕、其「アハツキ」尋候へとも行衛相知れ不申候故、欠落之御届ケ申上候、尤宗門帳面除名仕度、諸親類村方一統奉願候、願之通り御免被 仰付被下置候ハ、難有奉存候、以上

庄屋

藤右衛門判

同

久太夫判

寛政六甲寅年二月

藤山新右衛門様

一 宗門御掛り木寺三郎右衛門様御出被成候間、左様ニ御承知可被成候、尤寺院へも最寄庄屋方御達シ可有之候、以上

一 宗門人数増減書并ニ惣懸メ書、今晚方早々御出可有之候、以上

二月五日

覚

いさつ村

与兵衛倅

年廿九 与八

右之者五年以前申年京丸田町伊勢屋善助方方五ヶ年持ニ参り候処、去年十二月廿五日欠落仕、其後方々相尋候へとも行衛相知不申候故御届ケ申上候、以上

庄屋

藤右衛門

同

久太夫

寛政五癸丑年正月十八日

一 右同日利八悻太郎吉持方歸り候案内仕候、是ハ口上ニ而申上候、以上

一 水戸様御簾中方姫様去月廿六日御逝去ニ付、来ル九日迄三日之間鳴物御停止、普請御講無之旨被仰出候間、此段御心得御申達、尤惣寺院へも最寄ニ御申達可有之候、已上

二月七日

尚々村々鹿狩致し候義も有之候者二三日前方ニ申出候様被仰出候、品ニ方御家中様御見物ニ御出被成度様被仰出候、已上

殿様去月廿九日

御出勤被遊候、左右被 仰出候間此段御承知、尤寺院江茂最寄ニ御申達可有之候、已上

一惣分帳病人御中間御家中奉公人他所持、代判帳此廻状届ケ次第早々御差出可有之候、已上

二月十日

尚々相濟候村方者、此廻状二御印御廻可有之候、尤案内二者不及候、且又此廻状留リテ御戻シ可被成候、已上

一来ル十八日方宗門御改与して東方へ被成御出候、尤西方へハ同廿二日方被成御出候間、其段御心得可有之候

一松苗八本 伊佐津村

右之村々京田村御立山へ来ル十六日五ツ時二揃二年寄方召連罷出候様、尤人足齧持参いたし候様二、且松苗念入差出候様御申付可有之候

二月十四日

一引土村鑄物師居吹御免被 仰付候間此段御承知可有之候、已上

二月十六日

一小判兩替六拾目五分

右之通り二被仰出候

一 引土村

市左衛門

右之者宗門御改之節上判二被仰付候

一 京田村

泰治

一 伊佐津村

文治

右兩人之者宗門御改之節下判二被仰付候、尤雨天之節下駄傘御免被仰付候、乍併在方醫師之分ハ一統之事二御座候、為御心得惣方へ申達候、已上

二月十六日

一先納銀三拾貫目

但シ来ル三月五日頃迄

右之通り被仰付候間、其段御心得、尤跡方割ハ可申達候

一在方之者共御諸士へ対シ致無礼候様二相聞不埒之事二候、已来無礼無之候様二末々迄行届キ可申様被仰出候、村々人別ニ呼出シ御申付可有之候、已上

一宗判御奉行様茂弥今十八日二東方へ御出被遊、弥廿二日宗判二而御座候、

例之通り百姓ハ羽織傘木履御法度二御座候間此段御申付、尤去年之通り人寄ハ無之候間、組頭之者組下を召連一村宛壹所二相堅リ居候様諸事不目立

風俗急度御申付可有之候、已上、人足拾人

二月十八日

追啓申入候、例之通り来ル廿一日早朔二可被罷出候、以上

一明廿六日宗門御礼二可被罷出候、尤例之通り町宿二而割いたし候間朔五ツ時二揃二御越シ可有之候、已上

一遊行上人、来ル四月御領向二而御座候間其段御承知、尤例之通り御心得可有之候、已上

二月廿五日

一來ル三月四日ニ拙宅ニ而先納銀相寄候間、朔五ツ時ニ御持參可有之候、尤
村方ニ而割合被致、人別差出候様御申付、夫レ共難相弁候分ハ二日ニ拙宅
へ御申出可有之候、已上

一銀貳百九拾九匁六分、居村分

二月廿九日

御家中召使之儀、近年奉公人少ク候ニ付、小頭共内々大所屋へ懸合差出さ
せ候、然ル処年々組懸り多相成給銀増過分相望取斗難致候ニ付、是迄他所出
相願候例無之、村々茂望之者共其所持相願、右増給之分此者共取立申度
之旨、去戌年申出候ニ付一統之便ニ茂可相成哉ニ付承届ケ置候処、是又大庄
屋上ニ而取斗難致趣ニ而給銀相増候様申出候、下々之儀も難渋之趣無余儀事
ニ候得共、過分之給銀差遣候儀難相成りニ付不得止事
左之通り定候間、相弁候儀心得可有之候事

一奉公人之儀、村々家数ニ応シ差出可申入用人数之儀者割合ヲ以組々江可申
達候

但村々役人之分相除格別故障有之者用捨可有事

上札八拾五匁

一給銀 中同七拾匁

下同六拾匁

但三月迄三月迄

一年季之事

一江戸勤 上金貳兩三歩

中同貳兩壹歩

下同貳兩

但五月迄翌年七月迄

一同組合召使

上金三兩

中同貳兩貳歩

下同貳兩貳歩

但右同断

一右年季之内引替候事有之節者早速代り人差出シ可申候、臨時入用之節者差
懸り申付候儀可有之候、兼而其心得可有候
右相定候処其大概ニ候、限月等之儀猶其主人へ直対可有之事

寅二月

口上之覚

一御家中奉公人之儀前役ニ而差出候様被仰付、乍恐御尤ニ奉承知候、左候得
者旅持人増給申付度旨御願申上候処御聞届被遊、右ニ付定又書早速差出候
様被仰付、則先役市左衛門・同久七給銀之儀相定又申上候、然ル処去々年
方ニケ年之間格別下々之難渋ニ茂不相成哉与支配仕見申候処、追々奉公人
被仰付、在方者暮方暮迄之極ニ而候故、奉公人私底ニ付増給多分ニ罷成組
ニ方てハ旅持人多ク組者格別差遣ニ茂不相成候様相聞へ候得共、是茂年々
相替申候、又組ニ方てハ旅持人少ク組ハ増割多相成百姓共甚難渋ニ申候、
然上ハ御慈悲ヲ左之通御願申上候

一奉公人高早春ニ何人与御極メ被仰付可被下候

一是迄之奉公人不残御暇被遣、新規ニ相定申度候、尤御差留被遊度奉公人ハ
先達而大庄屋共江御内分ニ而被仰付可被下候

一給分之儀ハ御中間並ニ貳石宛并ニ小やろうハ壹石五斗、尤少々老年ニ及又
八年若ク候共壹俵米持或者米春、又ハ木割申候ものハ貳石宛被遣可被下候、
如様ニ御願申上候儀者恐多候得共、御城内様江罷出候儀ハ氣遣ニ申、給銀
同事ニ御座候而茂百姓奉公ハ少々之休日茂有之、或者休日夜分等ニ私持仕
候へ者積り宜敷御座候、且又御城内様江罷出候奉公人者給銀多不差遣候而

ハ出人無之候

一御江戸行奉公人ハ金三兩并ニ御組合ハ三兩老歩被遣可被下候

一とちうニ奉公人御暇被遣候儀ハ代り人難聞立、又ハ増給多相成乍恐難渋ニ

御座候、大庄屋御了簡ニ而御定之通御遣被遊可被下候、乍併格別之越度仕

候儀者無抛次第二候、或者御役替御江戸行等格別之御事ニ而奉承知居申候

一奉公人老年宛ニ御極可被下候、尤三月ノ三月迄右之通内々ニ而奉願候、以

御憐愍ヲ願之通被仰付可被下候、願書ニ而御願申上候儀ニ而ハ無之候へと

も惣方之儀故口上間違候而ハ恐多奉存候故口上書仕候、已上

東西

大庄屋中

丑ノ二月

一來ル廿日迄ニ先納銀被仰付候間、十九日ニ左之通り拙宅へ御持参可有之候、

尤村ニ而致割人別ニ差出し可申様御申付、乍併高歩ニ而借り替候儀ハ無用

事ニ候間、宜敷御取斗可有之候、且又調達難成村者十六日ニ御申出可有之

候

一來ル十六日二三之丸御米并ニ大麦拝借出申候間、左之通り致割合申候間、

人足召連五ツ時ニ御越シ可有之候、已上

一御米 四俵

一大麦 四俵 伊佐津村分

一銀百四拾九匁八分 先納銀

御米ハ六十三俵

大麦ハ七拾俵

先納銀ハ貳貫九拾八匁五分

右者十九日拙宅へ寄セ申候、已上

三月七日

早々御領達尤留り方御序之節ニ御戻し可有之候

三月八日

一伊勢酒迎出来 三分五り 宛

米貳合

一米大豆共仲之口御免被仰付候間、其段御心得御申付可有之候、已上

三月八日

一久太郎願書先達而差出し候通り、当年七年ニ成ルとて大庄屋様名当テニ而

差出し申候、以上

三月廿三日

右村々方先日差出し候出火之節駈付人足御門通札出来ニ付御渡シ被成候間、

請取ニ罷出候様被仰出候間、其段御心得請取ニ御越シ可有之候、以上

三月廿七日

尚々老人宛別々ニ罷出候而ハ御役所御面倒ニ御座候間、今八ツ時ニ拙宅ニ而

相集メ被罷出候、以上

一來ル四月五日先納銀被仰付候間、拙宅へ朝五ツ時ニ御持参可有之候、尤去

ル三月五日ニ上納仕候高ニ而御座候間割書ハ不致候間其段御心得、早朔

御越可有之候銀子難出来、村者早々御申出可有之候、已上

一御城内奉公人当三月方相勤居申候名前得与御調べ、其日御申出可有之候、

已上

三月廿七日

先日申達置候通、明五日先納拙宅ニ而相寄申候間五ツ時ニ御持参、尤九ツ時

方仲間参会有之ニ付昼迄ニ相仕廻申度間、刻限無間違御越可有之候、為念申

入候、已上

四月四日四ツ時ニ参ル

宗旨放し手形之事

一丹後田辺領加佐之郡いさつ村百姓吉兵衛・娘かる・同ゆら・同きよ右四人
家内其御村方へ此度引越し度候間、乍御世話其御村之御宗門ニ御加へ被成
下候、当村ニ少茂申分無御座候、宗旨放し手形依而如件
寛政六寅四月七日

丹後田辺加佐郡

いさつ村

庄屋

藤右衛門

久太夫

丹波桑田郡毘沙門村

御役人中様

一六人 伊佐津村

右之人足明九日ニ京海道へ朔五ツ時ツキ揃もつこ持参いたし役人召連罷出候様被
仰付候、以上

四月七日

内々御談申入度儀有之候間、明十日八ツ時ニ乍御太儀拙宅へ御越シ可被下候、
已上

四月九日

庄屋年寄共

伊佐津村庄屋

藤右衛門

役御免

久太夫

同村年寄

太右衛門

七日市村年寄

宇左衛門

同村同

与右衛門

京田村庄屋

六三郎

同村年寄

作右衛門

十倉村庄屋京田村

六右衛門

同村年寄

太郎兵衛

同村百姓

与惣左衛門

真倉村庄屋

文右衛門

同村年寄

久兵衛

同村同

作左衛門

右之者御用有之候間、明十日四ツ時ニ罷出候様被仰付候間、早朝御出町有之候、
已上

四月九日 野田様

庄屋衆中

青谷山こゑ草、来ル十四日九ツ時分明ケ申候間、左様ニ思召村方へ茂御申付可被成候、夫迄者悪人茂入込不申候様御申付置可被成候、已上

四月十一日

万願寺村・さかい村・いさつ村・円満寺村・上安久村・倉谷村・福来村大庄屋衆中様
此外村江者福来村分御達可被成候

伊佐津村

久太郎

親類之者

組頭

紙屋

嘉左衛門

肝煎

善次郎

ノ

右之者御用有之候間、明十三日八ツ時ニ召連レ拙宅江御越可有之候、已上

四月十二日大庄屋様分

大内口様今十五日四ツ時ニ御供揃ニ而近辺御出被 仰出候、尤も拙宅江御屋弁当所被仰付候間、左様ニ御心得諸事例之通村方江御申付可有之候、以上

四月十五日

明十八日五ツ半時御催揃ニ而大内口様近辺江御出被遊候間、左様ニ御心得可有是候、以上

四月十七日

野村路村三右衛門へ申達候、然者御弁当所被仰付、岡田御氏方直々御申達シ之趣致承知候、諸事例之通御心得可有之候、以上

一 御囲土手西之方ニ定杭御打被成候由、則御奉行川崎求次様・阿辻五太夫様、則村分下八廿間ニ村内八十間ニ打申候
寛政六甲寅四月廿四日

一 明後三日節句御礼ニ東西共罷出候間、其段御承知可有之候

一 其序ニ先納銀相寄セ候間、朝六ツ半迄ニ亀屋へ御越シ可有之候、尤刻限無間違早々御出町可有之候、已上

一 銀四貫八百九拾六匁 五月三日立

一 壹匁三百九拾九匁 十一月立

内 五月三日上納

一 銀三百四拾九匁五分 村分

六月立

一 同九拾九匁九分 村分

右ニケ月分一所ニ廻り候

一 遊行上人様、弥五月三日に先キづれ相知レ被仰付候間、は大積り一組へ七十人斗り被仰付候、当村分四人、右之趣御上仕候間、弥御当地へ五月十三日ニ御着、十七八日ニ御立人足廻シ、庄屋衆一組分三人宛出候、尤大庄屋郡中之内ニ而式人罷出られ候、已上

五月三日

在町江

博奕之儀者我身に付さる人之財を掠取ル事故少茂廉恥の心ある者ハ不致事二候、尤一向下賤之者又ハ一座の酔興杯者深可咎事之様二茂無之候得共、此筋江立入候もの多ク者家業を忘れ身上をも破却いたし、其上悪心を生し漸々二悪掌の取作をならひ終二ハ大罪をも犯候二至事故、其段深憐ミ思召候哉嚴敷御制禁之事二而違犯之輩ハ夫々罪科被為処、一其町内名主組頭迄過料等被仰付候儀二有之候、然共急度博奕とも不相極、又ハ当時相改居候他之罪に因而前方之次第共相顛れ、或ハ一座の酒興、或ハ悪者之ために訴かされ、一旦之過杯有之其品紛敷者ハ罪之疑敷候准られ御宥恕之御沙汰も有之候、右二付万一致心得違候而正敷違犯の輩二而も御制禁相犯蒙重科候儀不便之至二候、依之此度改而申達候、自今以後万二違犯之者有之者本人ハ勿論重科二可為処、在方ハ五人組年寄庄屋、町方ハ兩隣組合組頭年寄ハ申二不及家主并町内並二至迄其品ニ夫々咎之次第有之候、此趣庄屋年寄組頭得与末々之者迄御法度之趣、能々相心得候様入念委可申論候、若庄屋年寄組頭申論方不行届次第茂有之候ハ、是又其咎可申付、庄屋年寄心得違有之候ハ、大庄屋落度たるへし、下人子共ハ其親々其主人よりも委可申論候、是亦申付方籠略二而違犯人出来候ハ、其親其主人も落度たるへく候

五月

右之通り被仰出候間、村々致承知候様御申達可有之候、已上

五月三日 森下文六

岡野市左衛門

大庄屋引土村

源三郎殿

右五月六日廻り

一遊行上人来ル廿日二御出立二候間、其段御心得可有之候

二下福井村・上福井村へ申達候、其御村ハ御通り二候間、差掛り何等御用等有之間敷哉難斗候間、かこひ人足御心得置、尤乍御兩人御番所迄御出迎二而御米印之先キ払可被致候、道筋無沙汰無之様御氣付可有之候

一人足先達而村々へ割付申候通無間違来ル十九日晚方迄二西町鍋屋平左衛門江相揃候様、尤式人相二長持之棒壹本細引壹筋宛持出候様御申付可有之候

孫助殿

安左衛門殿

作左衛門殿

右者来ル十九日五ツ時揃二拙宅迄御越可有之候、尤村掛り之人足之内壹人宛并当持二勝手二可被召連候

一作左衛門殿へ申達候、先日申入置候駕籠壹挺、来ル十九日九ツ時迄二龜屋迄可被差出候

一伊佐津村へ申達候、其御村へ掛り人足高之外二やとひ人足八人御差出可有之候

内

式人 十倉村人足

式人 引土村人足

壹人 白杉村人足

〆 五人

残り三人ハまし掛り二而候間、惣方やとひ二而候

一伊佐津村へ申達候人足六人、来ル十九日九ツ時迄二拙宅へ可被差出候駕籠龜屋迄為差出度候

一下福井村へ申達候、其御村へ人足高之外二三人やとひ人足可被差出候、

十九日晚方迄二西町鍋屋平左衛門迄御差出可有之候

右之通り間違無之様御心得、尤村々罷出候人足之儀、此組之役人方二かき

らす何事も差函相請候様、又者道筋二而酒二酔不申候様、此段急度御申付可有之候、若シ少二而茂不心得之者名前跡二而相知申候得者、急度相札可申間、此具々御申付可有之候

五月十七日 九ツ半過二参ル

一遊行上人送り人足、当村方四人、内紙屋方式人・百姓方式人出し、外二八人五月植付時分故御やとひ二而出し、壹人前賃錢五匁宛運徳搦なし出申し候間、其日罷歸り候間かご人足之分八翌日昼時二罷歸り候、当村八村二而人足中間二而相極、右之賃ヲかご持六匁五分、駄荷付四匁五分二抱定参り候

右之趣弥廿日二御出立有之候、已上

五月廿日

来ル五日先納相寄申候間、五ツ時迄二拙宅江御持参可有之候、尤可申達儀共有之候間、刻限無間違御越可有之候、且先達而御触書相廻し置候間、其節留り有御持参可有之候

一京都日雇宿山科屋四郎兵衛儀御免被仰付、今度竹原屋嘉兵衛与申者へ日雇宿被仰付候間、此段村々致承知候様御申達可有之候、已上

竹原屋嘉兵衛宅

京東中筋五条上ル所

六月三日巳ノ中刻二廻ル

六月四日二

一下福井村太右衛門、村追方被仰付候間、御役人衆落度被仰付遠慮有之候、御代官様御手代様大庄屋様、其節村之庄屋殿御役義御取上閉門加役大君村庄屋遠慮、右之趣被仰出候、其節二三日之内二組中役人御見舞二罷出候由、則七日二出候処朔五ツ時過二円降寺町大火二而惣動、尤与七与申者火元

二而家数四拾六軒、右之趣二御座候、已上

六月七日

追啓

此節大庄屋名代引土村孫助殿二被仰出候而、廻文相廻り候、已上
尚々弁当持参いたし候様御斗可有之候、已上

明十日五ツ時揃二三ノ丸灰除ケ人足、左之割合之通御差出し、尤鍬棒壹つ為持、年寄方相そへ可被差出候、以上

一十人 居村分

右之通り無間違早々御差出し可有之候、已上

六月九日夕 子ノ刻二

三之丸御米下藏江運せ申度申度候由二而差掛人足被仰付候間、達者成ル人足七人、只今上林屋太右衛門迄可被遣候、尤弁当跡を為持可被出候、以上

六月十日 辰ノ中刻二

尚々此廻状届次第、村方聞立有無承度候、已上

一月抱御中間七人

但シ七月切

右者急御用二候間、早々差出候様被仰出候間、此状届次第否御返答可有之候、已上

六月十六日 辰五刻

先日追々出火有之候二付、怪敷者共徘徊致候趣風聞有之候、并二火玉落之様二茂致風聞候間、右両様共見付次第可申出旨被仰出候間、其段御心得、村々立番二而茂致、もし怪敷ものを見付候者もより之番人江申付召取、早々案内可有之候、以上

六月十六日

一三之丸出火之節定之外村々茂人足罷出働申候何方村々二而候哉、睨而

相知不申候間、今日中ニ致吟味可申出旨候被仰出候間、人足何程出候哉、
又者働方如何御座候哉御吟味之上此状届次第御申出可有之候、以上

六月十九日 五ツ時被出し候

一御中間式人 伊佐津村方

儀助

久助

右月抱御中間、明廿一日ニ庄屋方召連御手代様致御案内御差出し可被成候

六月廿日

一米仲之口御差留被仰付候間、其段御承知可有之候

一茅貳百七拾束

右者明廿七日ニ御作事所江差出候様被仰出候間、左之通村々御出シ可有之候、
尤御手代方御窺之上差出候様御申付可有之候

内

四拾九束 伊左津村方

右之通差出拙宅江致案内候様御申付可有之候

一 引土村

孫助

一 公文名村

安左衛門

一 城屋村

作左衛門

右者来ル廿八日遊行上人割、何角ニ付上太ニ而致参会候間、五ツ時寄ニ東

西共相揃可被申寄ニ候間、御出町可有之候、尤其節之次第共御工夫被成可

置候

六月廿六日

御姫様御乳持、先日申達候得共又々申入候、郷中ニ望人無之候ニ付、乍当分
壹日二三匁宛日雇ヒニ致差出可申様仲間相極申候、今一応有無承度候、尤
乳持如様之儀ニテ罷出度与申儀も有之候て得与御吟味之上御申出可有之候、
如何様ニ致候而も相弁不差上候而茂難相濟候故御調べ早々御申出可有之候、
已上

六月廿八日 午之刻

遊行上人様入用割

一式百八拾八匁七分式り御割

一廿八匁 駕籠四挺増料

一四拾五匁 人足九人増割掛り

一三百六拾壹匁七分式り

此半分家数八百六拾四軒ニ割、壹軒ニ付式分六匁宛掛り、半分高五千三百四

拾三石四斗五升六合ニ割、但し百石ニ拾軒役大庄屋居村除ケ申候、尤百石ニ

付三匁三分七厘四毛ニ当ル

一三拾目式分九匁当村掛り

内ニ而

廿五匁雇人足五人出し置故引タリ、七月十日ニ持参致候、尤白杉・引土・十

倉三ヶ村之雇ニ而候

一明後十日中元之御礼御出町可有之候、尤講堂有之候間、其段御心得候

一諸運上相寄候間、其段御心得御持参可有之候

一遊行割別紙之通り御持参可有之候

一乍略儀知恩院三十五人講掛銀相寄セ候間、村方連中之衆中へ御達之上相寄

御持参可被下候、是乃別ニ相達不申候

右之通り御心得、尤暑氣之節、又ハ何角事多候ニ付刻限無間違六ツ半時ニ御揃可有之候、左様ニなくてハ一日ニ相濟不申候、吳々遅滞無之様御心得可有之候、已上

七月八日五ツ時

一六月七日五ツ時方円降寺町忠七与申者火元ニ而四十九軒出火、同九日八ツ時方御家中三ノ丸陰山全之丞殿火元ニ而廿軒出火、同十日夕朔七ツ時方倉谷武左衛門木屋方火出、是も家共藏斗残り、則人老人やけ死、大俣村之者奉公人ニ而候、同十三日晚七ツ時半時方御家中南通り秋保友之助殿出火、右之通り大火打続キ候故書留置申候

寛政六甲寅年六月

余り長早ニ付明十六日申ノ上刻方倉谷村組当組申合、於智恩院ニ夜三日之間雨乞五穀成就御祈禱相願申候、尤精進致衣服相改メ袴御持参之上、左之割付之通り刻限無遅滞堂場へ替る／＼拝礼可有之候

一昼夜不分御祈禱之事ニ候間、此状届次第村方之者へも委御達之上、二夜三日御祈禱中之間致精進、随分丹誠ヲ抽心願ヲこらし、年寄方百姓ヲ召連勝手ニ致参詣候様御申付可有之候

一大庄屋代庄屋方共并当御持参可有之候、尤大庄屋代上下御持参可有之候
右之通り無間違御心得可有之候、余ハ面上之上可申談候、已上

初日 申刻方 源三郎
丑ノ刻迄 孫介
同 丑刻方 京田 六右衛門
卯ノ刻迄 六三郎
二日メ 卯ノ刻方 城屋 作左衛門

初日 申ノ刻方 公 安左衛門
丑ノ刻迄 円 勘左衛門
同 丑方 女布 庄右衛門
卯迄 野村 三右衛門
上福 長右衛門
下福 清左衛門
大 与惣左衛門
喜 新次郎
吉 与惣左衛門
有 助右衛門
公 安左衛門
円 勘左衛門
い 久太夫

三日メ 丑方 引 孫介
西迄 白 庄左衛門
同 西方 城 作左衛門
午方 京 六右衛門
結迄 孫介 作左衛門

右者大庄屋代之分上下ニ而御勤可有之候

同 西方 女 庄右衛門
大 与惣左衛門

丑迄 北 新二郎

吉 与惣左衛門

有 助左衛門

七 与右衛門

十 与惣左衛門

真 久兵衛

い 久太夫

野 三右衛門

上福 長右衛門

下同 清左衛門

北 新二郎

大 与惣左衛門

真 久兵衛

吉 与惣左衛門

有 助左衛門

右者袴羽織ニ而刻限無間違御勤可有之候、已上

七月十五日

一 旱統ニ付於松尾弥山明十九日五穀成就御祈禱被 仰付候間、其段御心得

御申達可有之候、已上

一 北之御屋敷様ニ来月御産有之候積ニ候間、右ニ付御さし壱人御用ニ候間、

早々御聞立有無之儀、二三日中ニ御申出可有之候、已上

七月十八日

博奕賭之勝負之儀、前々方御制禁之処、今以不相止博奕又者紛敷賭之勝負

いたすもの有之趣ニ相聞候ニ付無油断召捕、たとひ御料所之者ニ候と茂其所

之御代官へ懸合之上御差図次第直置可申付候、他領之引合も勿論其領主懸

合之上相互ニ勝手次第仕置可申付候、尤小給之面々陣屋無之家来等も不差置

分、并寺社領之分ハ村役人方向寄之奉行所又者御代官へ申立、右奉行所或者

御代官ニ而咎申付候儀も勝手次第之事ニ候、右之通被相心得、猶又嚴重ニ可

被申付候、右之通可被相触候

六月

此度従

大公儀様被 仰付候、尤御地頭様を先達而被仰付候御主意と同様之儀ニ候間

村々写置、下々へ者勿論寺院江も最寄ニ可被申達候

一 壹錢ニ錢之繩引、或者かるたかけ碁かけ、其外かけの類ハ皆廉恥の心有

者ハ不致事ニ候、別而此度被 仰付候儀ニ候得者座興とて壹錢貳錢のかけ

の類ハ、役人ハ不及申下々急度可相慎事ニ候間、下々江茂委細為申聞五

人組内より致吟味少々之事ニ而可申出程之義ニ而無之候者、其村方ニ而

掟相極、其村之式法ニ可被取斗候、此様ニ申達候上不心得之者拙者共へ

相聞江候得者急度相糺、其上御上様江可申上候、若シ此度御触書難相分り

所も有之候者勝手ニ拙者宅へ御越可有之候、已上

七月廿二日

追啓申達候、急御用ニ而ハ無之候間得与写置御順達可有之候、尤留り方序ニ

御戻し可有之候、深夜ニ相成り候而ハ相廻スニ不及候、已上

一 六月三日頃を天氣ニ而旱、八月十日頃迄旱、御上様村々町中御祈禱有之候、

則日やけ之処ハひが十日前ニ御見分被成候

明廿五日御談申度儀有之候間、九ツ半時ニ拙宅江御出相訴之候、以上

七月廿四日

一秋保源太郎様出火、御門長屋朔四ツ時二出申候、已上 三ノ丸
七月廿五日

一御中間 久助

右月抱六月廿二日迄出、則七月廿九日迄相勤、日数ハ三拾九人勤罷歸り御
暇出申候、則御上右日割分直ニもらい歸り候、則大庄屋様へ申出置候

七月朔日

追啓にて則儀助ハ残り申候

一米沖之口御免被 仰付候間、左様御心得被成候

一大社御師矢田源太夫ハ五穀成就御祈祷御祓并地祭り御礼御神供御土メ四品

差廻候間、御頂戴可被有候、以上

八月六日

一庄右衛門家来出申候義申来り候

八月六日 親 吉田村五郎助

一庵住介抱人付候事、下地ハ初メ久米七夜参り申候

八月六日

一式拾人木出し人足

右者眞壁峠へ明八日早朔（あさ）ほり繩持参いたし出し可被成候、已上

八月七日 城屋村二而杣

早二付今日ハ二夜三日五穀成就御祈祷有之、尤明十一日暮時ハ九ツ時迄於水
無月二龍神祭被仰付候間、此段末々へも御申達可有之候

右之通り被仰出候二付、暮六ツ時迄二拙宅へ御越惣方致同道参詣可申候、尤
百姓も信心之者者勝手ニ致参詣候様、是又御申為聞可有之候、刻限無間違御
越可有之候、已上

八月十日亥ノ

此間雨乞五穀成就御祈祷御砂日向殿ハ組内江被相送候間、壹ヶ村ニ壹巴宛致
頂戴御廻シ可有之候、尤虫除（むしよけ）茂相成候間、稲作ハ勿論（なたいじん）大根迄ニ御ぬり可有
之候、已上

八月十四日

一來ル廿二日初御納所被仰付候間、左様ニ御心得可有之候、已上

八月十六日

尚々森下藤左衛門殿御死去ニ候間、是又為御心得申入候、已上

河守海道筋、例年之通り掃除申付候間、人足召連左之通り夫々丁場へ可被罷
出候、已上

八月十九日 小木達右衛門

戸野半之

來ル廿八日五ツ時出

一田中源太夫様

右ハ野形御見分ニ御出被成候間、左様ニ御心得可有之候、已上

八月廿一日ニ被仰出候

一來ル九月朔日ハ野形御見分、西方へ御出被成候、尤例之通り下方ハ人足朔
日ニ出候間、其段御心得可有之候

一来ル九月三日ニハ野村路村御昼弁当ニ候間、道筋無沙汰無之候様御申付、
尤当年ハ小頭方午御兩人御出被成候ニ付、引土村ハ野村寺村迄寄人多御差
出シ可有之候、且城屋村ハ真壁峠迄寄人多御差出し可有之候

一格別之儀茂無之候様ニ被存候ニ付、晦日ニ庄屋方人足わりニ御出町ニハ不
及候、尤御先キ供又ハ人足例之通り御心得間違無之様、不覚之衆中ハ最寄
之庄屋方ハ相尋御越シ可有之候、已上

八月廿九日午之刻
人足拾人居村分

一御姫様被遊御死去候ニ付、昨六日方来ル八日迄鳴物御停止被仰出候間、此
段御心得御申達向寄庄屋方惣寺院へも早々御申達可有之候、已上

九月七日

当年ハ相延候故十五日夕有宿折々

一白米七合

札三分

右日待出来書記し置候

九月十三日

昨夕相触候鳴物御停止相済候而茂、来ル十五日迄ハ御忘中ニ有之候間、其段
相心得罷有候様、尤祭礼所之儀者御出棺相済候迄ハ遠慮致候様ニ被仰出候間、
左様ニ御心得可有之候

一小判兩替五拾九匁五分

右之通り御張紙被仰付候

一糶高 六拾六石三斗

右之通り被仰付候間、左様ニ御心得、尤当年者大旱ニ付、喜多村早稻晚稻共
大旱焼ニ付、掛り高糶相除申候

一六百四拾八束三包
右者御厩わら

一糶 五石六斗 伊佐津村
内 壹石六斗 早田御種糶

右之道御差出、尤御種糶五升壹斗宛相寄候而者御種当ニ者不相成候間、随分
念入何糶与札相付御差出可有之候

御始再ハ御座有間敷候得共、持念申入候

寅ノ九月十七日廻り

尚々收納割無之候而茂大底ハ相知居候間、廿一日ニ收納米出情ニ出シ候様ニ
御心得可有之候、来ル廿一日致收納割候間、例之通り早朝ハ龜屋へ御越可有
之候

一廿一日ハ本收納相初り申候間、例之通り三三四与御申付置可有之候、已上

九月十八日

一町中祭礼相延候間、九月廿八日ハ廿九日兩日ニ有之候、已上
九月廿八日

一御中間 貳人

右者例之通り納張りニ罷出候間、其段御心得可被成候

十月三日

一御中間 式人

右者例之通り納張二罷出候間、其段御心得可被成候、已上

十月三日

殿様先月廿六日被為遊御出勤候、此段村々致承知罷有候様被仰出候間、左様二御心得可有之候、尤外寺院へも最寄方^方可被相達候、已上

紙屋

嘉左衛門

右之通り来ル十日迄二例之通り恐悦申上候様二被仰出候間、其旨御申置可有之候、已上

十日八日

岡田貞次様願之通り御暇罷出候二付、野田和三郎様講堂御勤被成候間、其段御承知可被成候、以上

十月十二日

一藁拾束、右岡田伝右衛門殿屋ね棟廻入用二付相調申度御頼二候間、品々御差出可有之候、以上

十月十五日

一御蔵米 五拾四匁

右之通被仰出候

十月十四日

一明廿一日五ツ時御供揃二而大内口様近辺御出被仰出候、例之通り御心得可有之候、已上

十月廿日 夜六ツ過

一御蔵米壹匁引下ケ

右二付五拾三匁

右之通り被仰出候

一殿様去ル十五日御暇被為蒙仰候、御左右有之候二付

紙屋

嘉左衛門

右之者共来ル廿八日迄例之通り御家老中様迄恐悦申上候様御申達、尤御目見へ之外寺院江茂右之段致承知候様村庄屋方^方御達可有之候、已上

十月廿六日

原団之丞様二乳持御用二付、壹人聞立候様被仰付候間、二三日之内二有無之案内拙宅迄可被御申出候、已上

十月廿七日

明廿九日京田村・真倉村境二御用材木有之候間、棒つな致持参、真倉村へ^へ朔五ツ時揃二左之人足割之通り御差出、尤真倉村庄屋差図請可申様御申付可有之候、已上

一人足拾人 伊佐津村分

十月廿八日

一來ル九日 御帰城二付、東西共御收納休日之事

一御着前後火之元別而入念可申候事

一村々庄屋方

御奉行所へ恐悦申上候事

一 御目見之外寺院へも御奉行所迄恐悦罷出候様最寄庄屋方へ通達可有之候

一 紙や 嘉左衛門

右之者御着後

御家老中様迄恐悦申上候様可被相達事

一 御着座御当日、京口御番所脇へ引土村役人例之通り可被相待候事

一 拝見ニ罷出候者無礼無之様可被申付事

一 川越人足割先格之通り

五人 公文村

十五人 女布村

〆 式拾人

右真倉村御番所下へ相詰可申様、尤老人子供ハ不相成候

人足廻シ女布村

庄左衛門

一人足十五人 京田村

一同 五人 十倉村

〆 廿人

右者真倉村橋谷口相詰可申様、尤老人子供ハ不相成

人足廻シ伊佐津村

久太夫

右之通り召連定メ之場所へ相詰可被申候、尤刻限之儀ハ例之通り御聞合之上
無間違候様、早々可被罷出候

一 御道筋へ申達シ候掃除、其外雪隠之蓋杯ニ至迄氣ヲ付無沙汰無之様随分役

人之上吟味可被致候

一 七日市村へ申達シ候御役人様方御休所并大庄屋御目見之者休所ニ至迄、例

之通り仕落無之様役人可被相心得候

一 真倉村へ申達候、何事茂先格之通り氣ヲ付可被申候

右之通り御心得可有之候、已上

一 御藏大豆初直段

七拾目

右之通り被仰出候旨是又御承知可有之候、已上

十一月五日 六ツ時二遣

森村類焼割

但シ類焼十九軒

一百九拾九匁四分五厘 当組掛り

右者家数八百六十四軒二割

但シ大庄屋村拾軒除シ壹軒二付式分三厘〇八五二成候

七十八軒割

一 拾八匁壹り 伊佐津村

十一月廿三日

一 明廿五日八ツ前時ニ由り村之者呼出シ申候間、御太儀乍拙宅へ御越シ可有

之候、已上

十一月廿四日

廿三日より

一 御藏人足式人 居村

十一月廿四日出シ

一同式人

閏十一月八日二出シ候様被仰付候、十一月廿四日廻り

諸秤之儀古来より守随彦太郎役人相廻り候之処、近年者私事之様心得候哉、諸秤数多致所持候者も秤少々出し見せ不宜秤者隠置、或者秤所持不致旨を申改不請者も有之様相聞候、前以相触候通、守随方る役人相廻改候節諸秤不隠置不残出し改請候様可致候、尤紛敷秤者取上候等二候、此旨急度可相守者也、右之趣東海道・東山道・北陸道・丹波丹後、但高都合三十三ヶ国御料者御代官、私領者地頭より可被相触候

右之通り先年相触候処、可取上秤も守随方へ不相渡シ場所所有之、猥二秤売買いたし諸品も手前二而取替懸目不同之秤遣候者も有之趣相聞不届候、前々相触候通り守随方役人相廻候節諸秤不残改を請、西三十三ヶ国東三十三ヶ国二御通用無之、取上二相成候筋之秤者守随方江可相渡諸秤新古二不限守随方之外二而売買致間敷、手前二而衡并錘諸品取替申間敷候、若諸秤隠置改不請猥二売買いたし或者手前二而衡并錘諸品取替候者有之候者、急度咎可申付候

右之通先達而相触候向々江猶又可被相触候
十一月
右之通可被相触候
閏十一月七日

御作事御用材木明九日五ツ時揃二真倉村へ棒つな致持參、左之割合之通り人足御差出可有之候、尤真倉村庄屋差函請申候様二御申付付可有之候、已上
一人足七人 居村分
閏十一月八日
戸田五郎左衛門様願之通り御役御免被 仰付候間、此段御心得、尤惣寺院へも最寄二御達可有之候
右之通り閏十一月八日二被仰出候

一御蔵米石二付五拾三匁

右之通り御張紙被 仰付候間、此段御心得可有之候
右之通り昨日九日二被仰出候、已上

閏十一月十日
一明後十三日る初相納候様被 仰出候
左之通り

壹式番 十三日

三四番 十四日

右之通御差出可有之候、已上

閏十一月十一日

木出し十三日出シ

一人足廿人 居村分

右野村路村へ早朝御出し可被成候、已上

閏十一月十二日

植松式本 居村分

但シ五六尺位

右者御用有之候間、寒中二追々差出候様、尤根配り宜敷土落不申様能包差出候様被 仰出候間、来春植松割二而引可申候間、左之割合之通り中村安之丞殿へ宅へ御渡シ可有之候

一庄屋年寄あるき話分并役高相除ケ儀庄屋年寄屋敷引高之儀、是迄仕来り候書附、委相認、来ル十八日之朔迄二拙宅へ御差出可有之候、已上
閏十一月十六日

本寺三郎右衛門様

右者御目附役願之通御免被 仰付候間、此段御承知可有之候、尤寺院へも最

寄御達シ可有之候

一来ル廿一日ノ組勘定致候間其段御心得、朔五ツ時揃ニ上林屋へ御越シ、尤其晩二三ヶ村発記、喜多村新次郎発記集来致候間、其段御心得早朔御越シ可有之候、已上

閏十一月十八日

内海李様

右者御願ニ付御加判御免被 仰付候間其段御心得、尤最寄ニ寺院へも御達可有之候

一御用之儀ニ付御談申入度儀有之候、明二日五ツ時揃ニ拙宅へ御越シ可有之候、尤名代ニ而者難弁候、已上

十二月朔日

先達而御触有之候守随役人、此節丹波辺江相廻候様相聞候、先年茂村々々差出候様有之候得共、其節之名前等ニ而ハ難相分り候間村々方秤并横秤杜秤共改可請分早々名前御書出可有之候、且先日申談置候通、役人相廻り候節人々心得致置候様御申付置可有之候、已上

十二月四日昼時廻り

大口様ニ御乳持、此節御間欠之由ニ而御尋ニ候間、有無御聞立之上、早々御申出可有之候、尤此度ハ甚御間欠ニ候間随分御働御聞立可有之候、品ニ方給銀之儀者増給差遣可申候、外ニ乳持者人福嶋氏御望之由ニ而中沢氏方御頼ニ候間、是又御聞立可有之候、已上

十一月九日九ツ時ニ

一御用之儀ニ付申談度義有之候間、明十二日五ツ時揃ニ拙宅へ御越シ可有之候、已上

大急御用

尚々名代ニ而ハ難相弁候、已上

十二月十一日夕四ツ時廻り

右引土村方真倉村迄

一先日米斗出津候差留被 仰付候、尤此間懸合申候節相達候得共為念相達申候

一去ル十七日ニ惣皆済案内致申候所、右ニ付十八日夕津留御免被仰付候

町方へ

一近年来水損相統御収納方甚致減少、其上御入用筋相重り御借金者御物成之兩年も致超過御勝手向甚御差支有之候、然ル処当年ハ初夏已来江戸表臨時御入用多ク、其上当夏出火旁ニ而御物入相重り候上、早損ニ而御収納及減半、当季之上必至而差詰来春御取統も無思東公辺御勤も難相成、次第ニ有之候ニ付不被為得止事ヲ御家中知行取之分当暮物成御借米被仰付候、依之払方等ハ差滞可申候、尤来春ニ至り夫々訳合ニ可被仰付候得共、夫迄之処乍難渋相待可申候

十二月十八日

右之趣町方へ被仰出候間、其段御心得可有之候、尤留り方此状御序ニ御戻し可有之候、已上

十二月十九日 廿日八ツ時ニ廻ル

来ル廿四日歳暮相勤可申間御承知被下候、以上

十二月廿一日六ツ過

一今九ツ時御供揃ニ而近辺へ御出被 仰出候間、左様ニ御心得可有之候、已上

十二月廿五日

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 丹後風土記残欠倉部山 = 高梯郷の中心地
(舞鶴市多門院字梯木林) 新谷一幸氏撮影
- 2 大宮売神社旧本殿の調査風景 近藤史昭氏撮影
- 3 稲の虫送り (舞鶴市多門院) 新谷一幸氏撮影
- 4 舞鶴湾口から青葉山など東地域の山 松岡秀雄氏撮影
- 5 京丹後市大宮売神社の境内 菱田哲郎氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書 (2008 ~)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽地域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山城の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究



京都府立大学文化遺産叢書 第14集 舞鶴・京丹後地域の文化遺産

編集 東 昇・菱田 哲郎
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
発行日 2018年3月30日
印刷 サンケイデザイン株式会社
〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 14 番地 2